令和８(2026)年11月18日

保護者のみなさま

豊能町立とよの西学園
校　長　　内野　慎也

令和８（2026）年度　全国学力・学習状況調査の結果について

立冬の候、保護者のみなさまにはますますご健勝のこととお慶び申しあげます。平素より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、４月23日(木)に実施された全国学力・学習状況調査の結果を基に、本校での分析内容を報告いたします。正答率のみに着目するのではなく、児童生徒の学力傾向や学習状況、生活習慣などを正しく捉え、得意な分野を伸ばしながら、課題のある分野を改善していけるよう、この調査結果を生かしてまいります。

なお、全国学力・学習状況調査の問題等については国立教育政策研究所のホームページで、本町全体の分析結果については町のホームページで公表されていますので、それぞれご覧ください。

１．各教科等の調査結果

【調査教科を中心とした学力・学習状況】・・・図①

国語・算数/数学・英語の「学力」「意識」「学習活動」について、中央の点線の円を全国基準として、本校の調査結果をチャートで表したものである。

６年生は、算数の各項目および英語の学習活動・意識において、全国よりやや上回っている。国語は、学力で全国平均を上回っているが、意識や学習活動では、全国平均をやや下回っている。

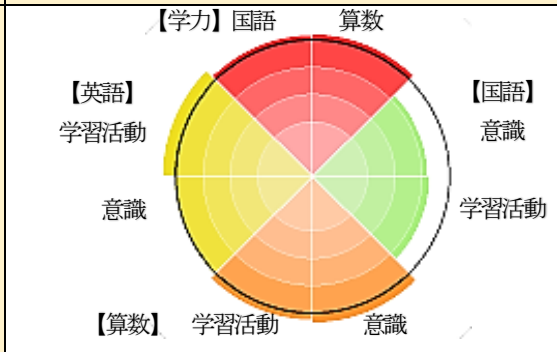
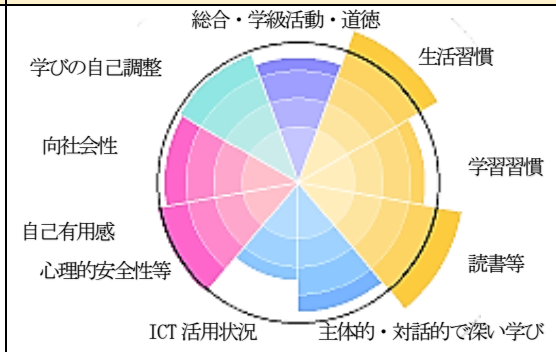
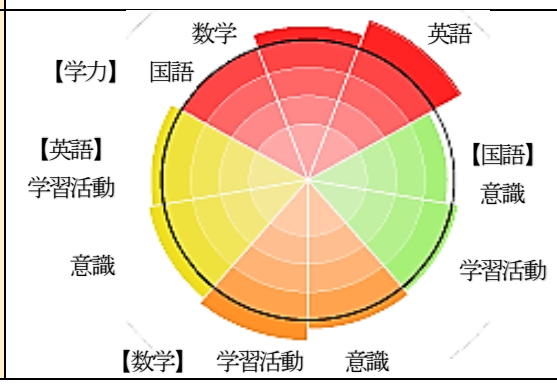
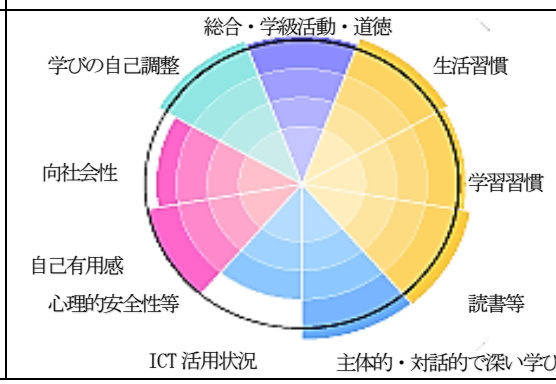
９年生は、英語と数学の各項目において、全国平均を上回っているが、国語については、「学習状況」は上回っているが、「学力」や「意識」はやや下回っている。

【その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）】・・・図②

「総合・学級活動・道徳」から時計回りに、「生活習慣」「学習習慣」「読書等」「主体的・対話的で深い学び」「ICTを活用した学習状況」「自己有用感・心理的安全性等」「向社会性」「学びの自己調整」について、中央の点線の円を全国基準として、本校の調査結果をチャートで表したものである。

６年生と９年生の「生活習慣」や「読書等」は全国を上回っているが、「ICTを活用した学習状況」「向社会性」の項目が全国平均よりも下回っている。授業内でタブレット端末の活用は行われているが、家庭での使用頻度が少ない。

【図①】　　【図②】

	調査教科を中心とした学力・学習状況	その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）
６年		
９年		

国　語	学年	本　校	全　国	全国との差
	6　年	62．0	60．9	+1．1
	9　年	63．0	63．9	−0．9

（1）　全体概要

6年生

全国平均を1.1%上回った。国語に関する意識（「国語の勉強は好きか」等）ならびに国語の学習活動（「国語の授業内容がよくわかる」等）について全国を下回っている。「書くこと」の領域において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えたり、引用して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりする設問で課題が見られた。

9年生

ほぼ全国平均と同じであった。国語の学習活動（「国語の授業内容がよくわかる」等）については全国を上回っているが、国語に関する意識（「国語の勉強は好きか」等）は全国を下回っている。「話すこと・聞くこと」の領域において、目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討する、「書くこと」の領域において、表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見い出したりする設問で課題が見られた。

（2）正答率による分析

①正答率が全国と比較して上回っている問題

	問題番号	正答率		問題の概要	出題の趣旨
		本校	全国		
6年	3　一	86.6 (+9.9)	76.7	【文章】の特徴として適切なものを選択する	話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる
	1　二（2）	71.6 (+8.4)	63.2	【動画の一部】の太線囲みの部分の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる
9年	4　一	78.5 (+6.9)	71.6	文章全体を三つに分けて整理したものとして適切なものを選択する	文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉えることができるかどうかをみる
	4　二	41.5 (+6.3)	35.2	国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる

②正答率が全国と比較して下回っている問題

	問題番号	正答率		問題の概要	出題の趣旨
		本校	全国		
6年	2　四	23.9 (-9.6)	33.5	【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる
	2　一	49.3 (-8.6)	57.9	花山さんの文章の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる
9年	3　四	32.3 (-12.7)	45.0	書いた文章について、交流を基にして、「この文章のよい点や改善点」と「今後随筆を書くときに生かしたいこと」を書く	表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる
	3　一	29.2 (-10.6)	39.8	文書作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして、漢字を書き、漢字の組合せとして適切なものを選択する（とる）	文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる

算数/数学	学年	本　校	全　国	全国との差
	6　年	57．0	56．4	+0．6
	9　年	61．0	57．0	+4．0

（1）全体概要

6年生

全国平均を0.6%上回った。数学に関する意識（「数学の勉強は好きか」等）ならびに数学の学習活動（「数学の授業がよくわかる」等）について全国を上回っている。「データの活用」の領域において、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件をもとに、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述したり、示された二

つの表から、集計に誤りのある項目を見つけ、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述したりする設問で課題が見られた。

9年生

全国平均を４％上回った。数学に関する意識（「数学の勉強は好きか」等）ならびに数学の学習活動（「数学の授業がよくわかる」等）について全国を上回っている。また、すべての領域において全国平均を上回っていて、特に関数の領域において、全国平均を9.3%上回った。「図形」の領域において、2直線が平行になるための条件を理解したり、筋道を立てて考え、証明したりする設問で課題が見られた。

（2）正答率による分析

①正答率が全国と比較して上回っている問題

	問題番号	正答率 本校	正答率 全国	問題の概要	出題の趣旨
6年	1 (1)	85.1 (+12.4)	72.7	一辺が８ｃｍの立方体の体積を求める式を書く	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる
6年	2 (3)	43.3 (+7.2)	36.1	ペンギンがいる二つの広場の混み具合を求める式の意味について、正しいものを選ぶ	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる
9年	4	71.2 (+15.9)	55.3	反比例の表において、ｘの値が－３のときのｙの値を求める	反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、ｘの値に対応するｙの値を求めることができるかどうかをみる
9年	5	75.8 (+15.6)	60.2	大小二つのさいころを同時に投げるとき、大きいさいころの目が６で小さいさいころの目が１である確率を求める	起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることができるかどうかをみる

②正答率が全国と比較して下回っている問題

	問題番号	正答率 本校	正答率 全国	問題の概要	出題の趣旨
6年	4 (3)	9.0 (−8.9)	17.9	表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる
6年	1 (4)	37.3 (−7.9)	45.2	四つの箱のまとめ方によって宅配便の送料の違いを調べるために、直方体イの送料の求め方とその答えを書く	直方体の三つの辺の長さを捉え、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる
9年	9 (1)	39.4 (−6.6)	46.0	全校生徒の睡眠時間の度数分布表において、最小階級から６時間以上７時間未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる
9年	6 (1)	68.2 (−5.0)	73.2	選んだ２数が３と６のときについて、陸斗さんの予想が成り立つことを示す式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えているかどうかをみる

英　語

9年のみ		平均 IRT スコア	聞くこと	話すこと	読むこと・書くこと
	本　校	543	１．３　／　２	３．１　／　５	１．０　／　２
	全　国	499	１．２　／　２	２．６　／　５	０．７　／　２

（平均 IRT スコア･･･問題の難易度、正誤パターンの状況等から推定し、500 を基準にした得点。）

（1）　全体概要

9年生のみ

全体では、全国平均を0.6%上回った。英語に関する意識（「英語の勉強は好きか」等）ならびに英語の学習活動（「英語の授業がよくわかる」等）について全国を上回っている。また、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」すべての領域において全国平均を上回った。「書くこと」の領域において、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を図る設問では、全国平均とあまり変わらない正答率であった。加えてＩＲＴ平均スコアが、４４ポイント全国の値を上回っていた。

（2）正答率による分析

①正答率が全国平均と比較して上回っている問題

	問題番号	正答率 本校	正答率 全国	問題の概要	出題の趣旨
9年	17	69.6 (+21.6)	48.0	自分の好きな人物を1人取り上げ、好きな理由を話す	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる
	4	63.6 (+19.8)	43.8	職場体験についての発表を聞き、その後に示される3枚の絵を体験した順になるように選択する	日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる

②正答率が全国と比較して下回っている問題・・・該当なし

2．児童生徒質問紙調査の主な質問項目の結果

基本的な生活習慣

基本的生活習慣はおおむね身についているが、家庭学習に課題がある。

質　問　項　目	6年(全国比)	9年（全国比）
1　朝食を毎日食べている。	98.5 (+5.2)	93.9 (+3.0)
3　毎日、同じくらいの時刻に起きている。	90.9 (+0.2)	92.4 (0)
23 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上勉強している。	44.0 (−5.9)▲	60.6 (+1.0)

安心して通える学校

学校生活への安心感の肯定的回答割合が、全国より低い。

15　学校に行くのは楽しい。	83.3 (−2.4)▲	77.3(−8.1)▲
13　困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。	65.1 (−5.5)▲	68.1(−3.8)▲
9　先生は、あなたのよいところを認めてくれている。	92.4 (+1.0)	87.9(−3.0)▲
12　いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	96.9 (+0.7)	86.3(−8.8)▲
17　友達関係に満足している。	83.3 (−7.8)▲	95.5(+4.3)

主体的・対話的で深い学び

「主体的な学び・自己調整力」の肯定的回答割合は、全国より概ね高い。

39　授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	69.7 (−7.9)▲	86.4(+7.6)
42　学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる。	87.9 (+2.2)	91.0(+4.0)
38　授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表している。	69.7 (+3.3)	72.7(+7.2)
22　分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。	83.4 (+4.0)	81.8(+3.6)
43　学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。	74.2 (−4.2)▲	86.3(+7.3)

豊かな人間性等

「自己肯定感」の肯定的回答割合は、全国より高い。

8　自分には、よいところがある。	86.3 (+0.7)	86.4(+2.4)
10　将来の夢や目標を持っている。	80.3 (−1.5)▲	80.3(+12.7)
11 人が困っているときは、進んで助けている。	89.4 (−3.3)▲	95.4(+4.6)
33　地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。	87.9 (+7.8)	71.2(−1.1)▲
21　普段の生活の中で幸せな気持ちになる。（よくある・ときどきあるの割合）	91.0 (−1.5)▲	95.4(+4.4)

ＩＣＴを活用した学習

授業でのタブレットの活用率に課題がある。

35 授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を週3回以上使用した。	16.6 (−52.2)▲	77.4 (−0.8)▲
36 PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成することができる。	71.2 (−7.9)▲	81.8 (−3.0)▲
36 - 3 PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理することができる。	51.5 (−17.8)▲	54.5 (−14.9)▲

36－4　PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校での活動でプレゼンテーションを作成することができる。	69.7（-4.9）▲	80.3（+0.3）
24 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たり 30 分以上 PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っている。	27.3（-7.3）▲	31.8（+1.8）

３．今後に向けて（6 年生・9 年生の課題に正対した取組み）

【授業改善】

◎各教科の結果から考える授業改善

国語・・・「書くこと」では少し平均より劣る課題が見られる。表現の工夫や改善を行うことが苦手である。漢字の学習や表現能力を養う言語活動を授業に取り入れて、改善していく。

算数・数学・・・数学的な用語や概念の意味を確認し、既習事項と関連付けながら定着を図るとともに、問題場面を正確に読み取る力を育てる。また、図や表を活用して関係を捉え、根拠を明確にして筋道立てて説明・証明する活動を充実させる。各単元のつまずきを把握し、振り返りや補充学習につなげていく。

英語・・・正答率が全国平均と比較して下回っている問題の該当はないが、「書くこと」では課題がみられる。音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用する力を育てる。授業では、身近な話題について目的や相手を意識して英文を書く「帯活動」や「相互推敲」を取り入れる。

◎研究テーマ「子どもが学びの主人公～自ら学び問い続ける力を育む授業づくり～」の推進

今年度 2 学期に入って、上記の研究テーマに沿って、全教職員で授業づくりについての取組みを始めることとなった。学校の学校経営案（グランドデザイン）を踏まえた 1 年生～9 年生までの系統性のある授業づくりを考えていく（前期学部、中期学部、後期学部それぞれのゴールイメージを設定する）。また、教育活動の質を高めるための「カリキュラムマネジメント」の視点で教科横断的な授業づくりも検討し、①「自分の経験や体験」②「各教科の既習事項」③「さまざまな教科学習や社会とのつながり」の３つを児童生徒の実態に合わせて、『関連付けて、考える授業づくり』に取組んでいく中で、「自ら学び問い続ける力」を育んでいく。

◎４－３－２制（学習指導上）を意識した取組み

1 年生から 4 年生【学びの基礎】、5 年生から 7 年生【学びの充実】、8 年生から 9 年生【学びの発展】をそれぞれ意識した 9 年間の「一貫性」と「継続性」を意識した取組みを推進し、より充実した学習環境を整えていく。

◎プラスタイムの推進

今年度から児童生徒の学びに向けた主体性を引き出し、確かな学びと豊かな心の育成をめざしている。前期課程は、「学びのススメ」をもとに、各学年で取り組む自主学習を発達段階に応じて整理・共有し、段階的に「自分で学ぶ力」を高めていく。後期課程は、生徒が「自分で学びを選択し主体的に学習する時間」とし、「自分で課題を見つける力」「自分に合った学び方を選ぶ力」「学びをふりかえり、次につながる力」を育成していく。

【児童生徒の主体性を引き出す指導や支援】

◎チーム担任制の考え方や体制を校内で広げていく

「自分で考え、判断し、行動する児童生徒」を育てるため、複数の教職員で関わりながら、複数の価値観で指導や支援を行いながら、児童生徒が自分自身で取捨選択しながら、自己決定していくことを大切にしていく。また、学級の垣根をこえて、どの児童生徒も複数の教職員が関わることでの安心感やマッチング（児童生徒と教職員の相性等）の不具合などの解消につなげていく。

◎４－５制（生徒指導上）を意識した取組み

1 年生から 4 年生まではこれまでの小学校段階、5 年生からはこれまでの中学校段階として、2 年間前倒しで学校生活や生活ルールのもと、学校生活していくことで、これまで以上に「自分で考え、判断し、行動する児童生徒」を育てていく。

【タブレットやデジタル教材を積極的に活用】

紙媒体の教科書を中心にしながら、タブレットを活用した表現活動やデジタル教材の活用ならびにデジタル教科書等の活用を各学年の発達段階に応じて、段階的に活用率を上げ、児童生徒の学び方の幅を広げる。

【とよの未来科・異学年交流の推進】

「とよの」を知り、「とよの」を学ぶことを通して自分の生き方について考えたり、豊能町の未来について考えたりする教科横断的・総合的な学習の時間を進める。加えて、異学年交流を進めることで、児童生徒の自己有用感を育てていく。